



会津美里町【福島県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：20,359人 ■町域面積：276.33km²
■担当課：会津美里町教育委員会生涯学習課（平成31年3月現在）



会津美里町は、会津盆地において早くから発展した「まほろばの里」である。古代仏教文化を伝える寺院が点在し、会津文化発祥の由来を持つ伊佐須美神社も鎮座する。中世の会津統治の軍事拠点「向羽黒山城跡」や近世の産業振興の核「会津本郷焼」等、会津統治においては重要な地域であった。これらの豊かな町の歴史文化を子ども達に伝え、地域づくり等に活かしていく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

仏都会津とまほろばの里、会津文化発祥の地、
中世会津の風景、会津本郷焼、幕府領と会津藩領

課題

- ・社会的要因による伝統継承の危機
- ・地域の魅力を認識する機会の不足
- ・住民の郷土への愛着不足
- ・行政としての保護の方向性の検討

保存活用方針

- ・歴史文化に対する意識の醸成
- ・子ども達への地域教育の浸透
- ・文化財の保存
- ・文化財の活用

保存・活用のための取り組み

歴史文化に対する意識醸成への 取り組み

講演会や調査等を通して、住民が地域の歴史文化の価値を自ら再発見する機会を創出し、その手法を構築する。また、住民が主体的に地域の文化財等の保存・活用に取組む為の制度やサポートする為の仕組みづくりを推進することで、シビックプライドの醸成を図る。



子ども達への地域教育の浸透への 取り組み

郷土への理解・愛着を育み、歴史文化の保護意識を次世代へ繋ぐ為、地域や学校と連携して子ども達が自ら住む地域を知り、体験し、親しむ機会をつくる。町歴史副読本等を活用し、校区ごとに異なる地域の特色を踏まえながら、町全体の歴史文化の理解へ繋げる。



文化財の保存への取り組み

住民と連携し、文化財の保存を継続して行う。また、文化財の保存を図るための支援や町からの情報公開、文化財の保存に必要な情報の発信等を行い、特に地域が主体となった文化財保護取組を支援する。この他、防犯・防災体制の強化や周知を図る。

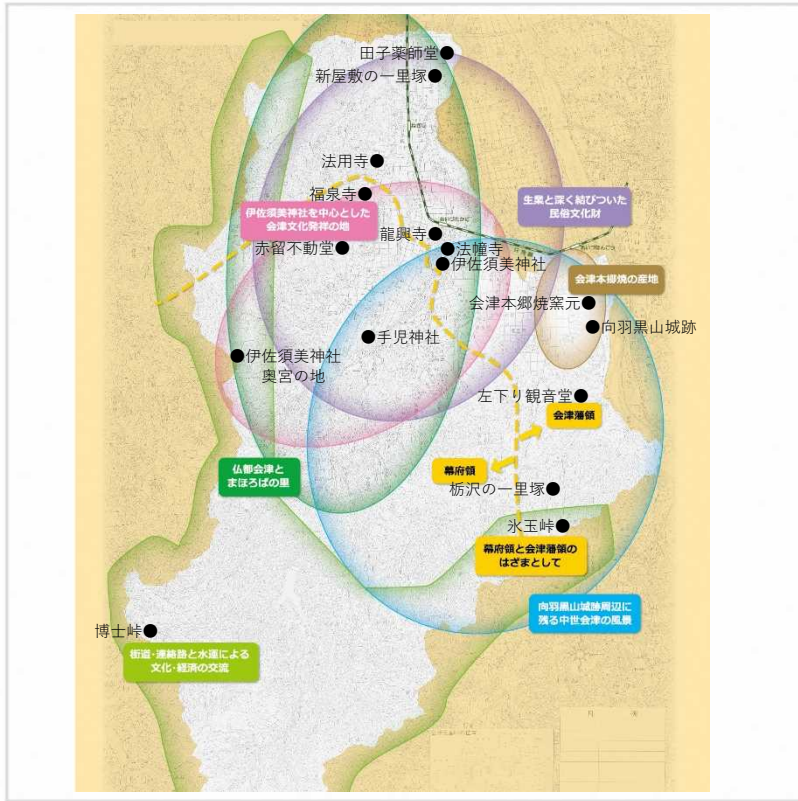


文化財活用への取り組み

歴史文化を町特有の資源と考え、まちづくりに活かすとともに、それらを町内外に周知することでより広域的な活用を図る。「会津本郷焼」の歴史的価値の周知や調査・研究・保護拠点として郷土資料館（仮称）を設置する。「歴史的風致維持向上計画」の策定と認定を目指す。



関連文化財群



会津美里町は「信仰」「中世城館」「会津本郷焼」「街道と連絡路」等を核とした関連文化財群が7つある。古代には山岳信仰に加えて仏教文化が栄え、中世では「向羽黒山城」が会津統治の軍事的拠点となり、近世では「会津本郷焼」による産業振興の地として栄えた。これらの背景には、山間部に残る「街道や連絡路」がある。

ストーリー

- ① 仏都会津とまほろばの里
- ② 伊佐須美神社を中心とした会津文化発祥の地
- ③ 向羽黒山城跡周辺に残る中世会津の風景
- ④ 会津本郷焼の産地
- ⑤ 街道・連絡路と水運による文化・経済の交流
- ⑥ 幕府領と会津藩領のはざまとして
- ⑦ 生業と深く結びついた民俗文化財

策定後の成果（見込まれる効果）

① 住民の郷土への興味関心の醸成
 個別の文化財周知だけでなく、歴史文化の特色を町の魅力として発信することで、町の魅力とその背景にある歴史文化は一体であることを住民が認識することが期待できる。それにより、住民の文化財に対するハードルを下げる。加えて、子どもへの地域教育を推進し、郷土愛の醸成が図られる。



② 文化財保護意識の醸成
 文化財等について背景や保存・活用例等を周知し、住民が学ぶ機会を創出する。それにより「古くから守る」から、文化財等が祖先の生活の中から創造された貴重な遺産で、これまで人の手・心によって守られてきたこと、失うと再び得ることはできないことを知り、文化財保護の当事者意識が醸成される。



③ 関連団体との連携協力体制の強化
 文化財所有者・管理者をはじめ、行政や住民、専門家等文化財に関わる立場の者が、お互いに連携して町の歴史文化の保存・活用を行うことを方向づけた。連携体制や役割について明確化したことで、関連団体間での連絡調整の強化が期待できる。現在、行政内部の関係課との連携協力体制が構築された。

